拝啓、スポーツを愛する すべての皆様

これはJリーグからすべての人へのメッセージ。

サッカーに関わる人も そうじゃない人も、

耳を傾けてほしい。

これからするのは サッカーの現場の話だけど

同じようなことが、サッカーとは関係ないところでも

起こっている。

だから、あなたの日常に置き換えてみてほしい。

これは、まだ あまり聞きなれない

「セーフガーディング」の話

大好きだからこそ、きつい言葉を我慢してしまうことがある。

つらいけど受け入れてしまうことや、

相手の行動がイヤなのに、見過ごしてしまうことがある。

コーチと選手。 先輩と後輩。 大勢と少数。

世の中はさまざまな人間関係で成り立っているから、

立場の違いがあるのは、当然。

でもそれは「何かを教える」とか「先に生まれた」とか
「人数が多い」とか、ただ立場が違うだけ。
誰かが上で、誰かが下、ということじゃない。
だから、どんな人も、相手に嫌な思いをさせちゃいけない。
どんな立場の人からも、あなたやあなたの大切な人は、
守られなければならない。
私たちJリーグが愛するスポーツは、
みんなを幸せにするものだから、
すべての人に傷ついてほしくない。そう願っています。
暴力や暴言そのほか成長や行動を阻害する
さまざまなことから、あなたや、あなたの大切な人を
守る言葉があります。それが「セーフガーディング」
セーフガーディングは、色々なことからあなたを守ります。
当たり前のことから、思いもよらないものまで、
さまざまなことを苦しみの種や成長の害と考えます。
ぜひ知っておいてください。
暴力や差別はもちろんダメ。

侮辱的・攻撃的な言葉を使うのも当然良くない。
不平等、えこひいきも、無くさないといけないし
相手を軽視したり、自尊心を傷つける行動を
とることで、心を痛める人もいます。
さらに、セーフガーディングでは、相手に対して友好的に
接していても、行き過ぎていたり、
やり方を間違えてしまうと、それは問題だと考えます。
例えば、良くないことをしても見過ごす。
活動外で個人的に連絡をとる。
過度なスキンシップや性的接触。
子どもが虐待に合いやすい状況をつくる。
自分でできることを過保護に手伝う。などなど
敬意をもって接する大人や先輩とのやりとりだから
どこまでが適切で、どこからが不適切なのか
その判断は、とても難しい。
だからこそ、抱え込まないでほしい。
何か気になることがあったら、相談してほしい。

あなたがまだ子どもなら、お父さん お母さんに
話してみてほしい。
あなたが保護者やスタッフなら、
チームに相談してみてほしい。
周りに相談できる人がいないと思ったら、
各競技団体や地域の専門窓口に相談してほしい。
私たちJリーグは、すべての人々が大切にされ、
受け入れられ、認め合う環境を作り、
誰もが安心して 大好きなことに打ち込める
環境を提供します。
これは、サッカーだけの話ではありません。
上司と部下。先生と生徒。親と子。大人と子ども。
その立場が逆転することだってあります。
私たちは、子ども、若者、大人、すべての人の未来のために
「セーフガーディング」を広めていきたいと考えています。
私たちが大好きなスポーツは、人を幸せにするもの。
みんなに未来へ向かう今を、楽しんでほしい。

あなたの可能性を大切に育んでほしい。
だから みんなに この言葉を おぼえてほしい。
セーフガーディング
Jリーグは、セーフガーディングを推進していきます。
Jリーグより